

「選択する未来2.0」 中間報告について

2020.7.1.

翁 百合

1. 政府はこれまで様々な取組を行ってきたが、データに基づき評価したところ、「選択する未来」（2015）が提言した、2020年代初めまでのジャンプスタートは実現できなかった（図表1）

2. 「選択する未来」が掲げた3つの目標の重要性は全く変わっていない

○少子化の流れを変える重要性を一層強く認識して、政府、企業、社会全体として取り組む必要。

○付加価値生産性向上は経済の最重要課題。デジタル化の遅れを取り戻す必要。

○各地域が稼げる豊かな地域に転換していく必要。

3. 新型コロナウイルス感染症による危機を社会変革の契機と捉え、日本社会を10年前進させる改革を一気に進める。今が選択の時。次の機会はないと考えるべき。

- ・ **教育、企業・社会の仕組みや慣行の変革**
- ・ **デジタル化の推進**
- ・ **人的投資をはじめとする無形資産への投資拡大**
- ・ **包摂的な支援で格差拡大防止**

○人々の価値観変化をアンケートで確認（図表2）。変革を進めることを決定し、その過程で生じる様々な課題に対し適切に対処する姿勢で臨む。

4. キーワードは「多様性」

○多様性にこそ価値がある。多様性がイノベーションを生み、変化への対応力を高める。多様な働き方、生き方を尊重し、硬直的な制度、慣行を変える。

5. 政府や企業等への具体的なHOW（取組）の提案（中間報告概要参照）

○懇談会として強調したいこと

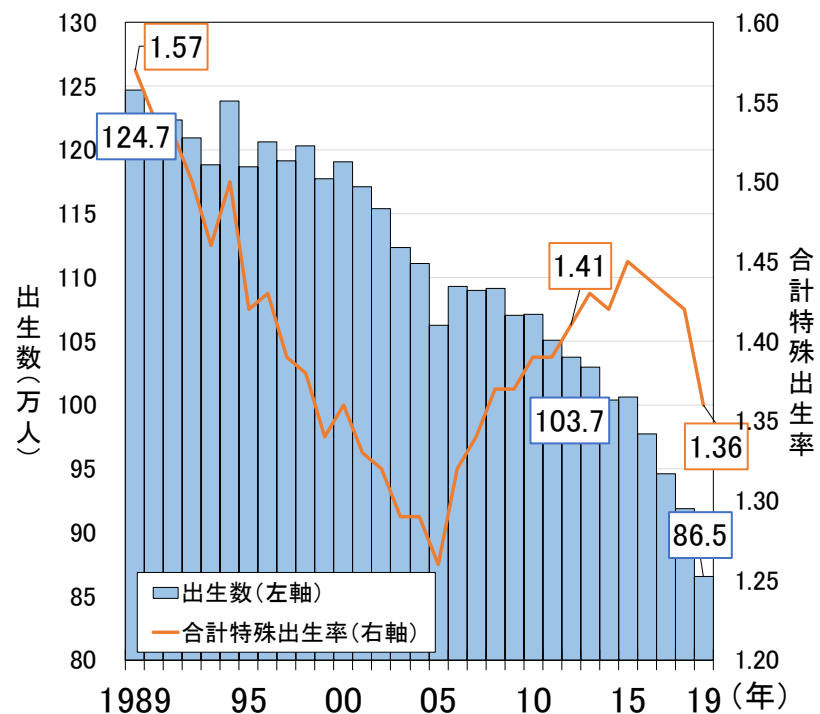
- ・ 若者に自信と安心を、ミドル層の潜在能力発揮
- ・ 男女がともにワークライフバランスを両立できる社会に変革
- ・ 人材教育と人材育成の重要性
- ・ 多様性を生かす企業経営、企業のデジタル化、付加価値生産性向上
- ・ 多核連携、分散型の魅力的な地域へ
- ・ 地方からイノベーションを

○①希望出生率の実現・上昇、②付加価値生産性、暮らしの豊かさの向上、
③多核連携の地方への転換は相互に関連、各取組を一体的に推進すべき。

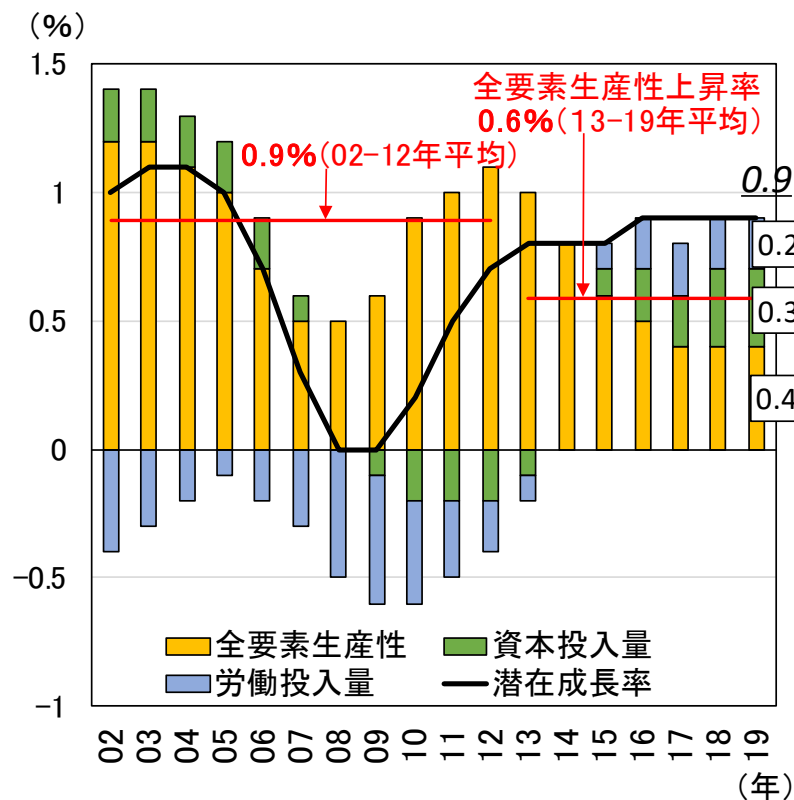
○データで検証し、エビデンスベースで政策を修正していく重要性。

(図表1) 「選択する未来1.0」のジャンプスタートは実現したか？

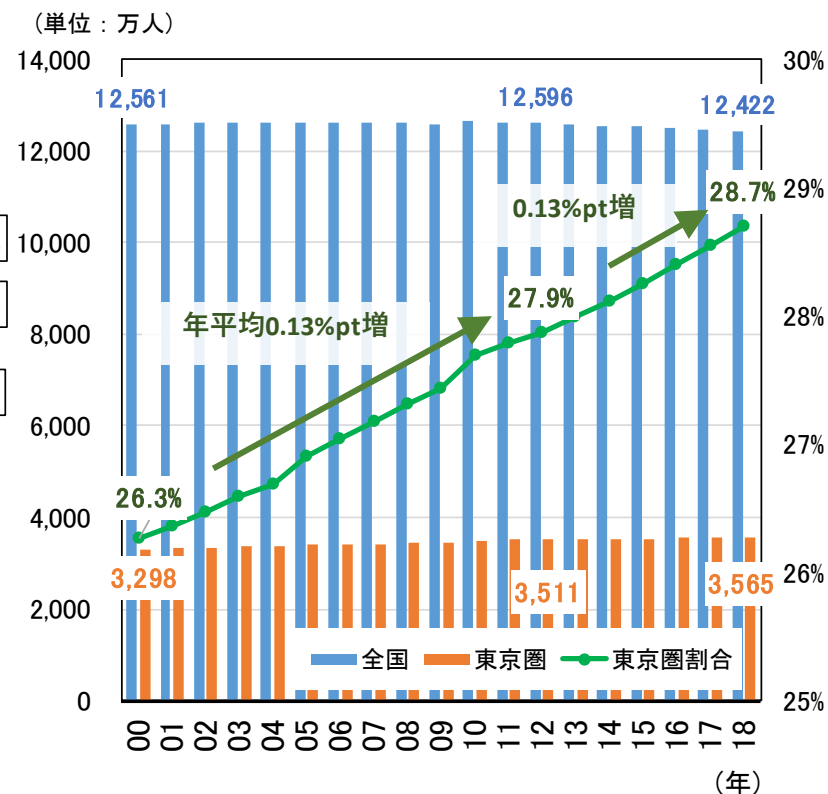
出生数及び合計特殊出生率の推移



潜在成長率の推移



全国に占める東京圏人口の割合

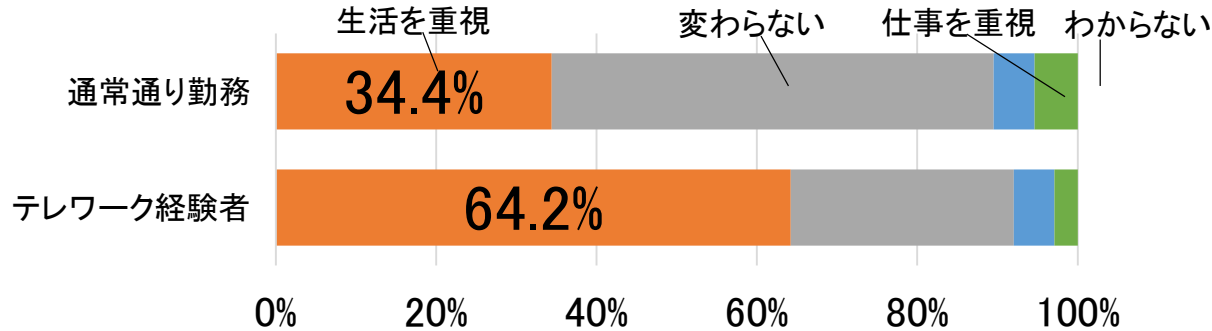


(図表2) 人々の価値観変化 (内閣府アンケート結果)

仕事と生活の意識の変化(テレワーク経験者)

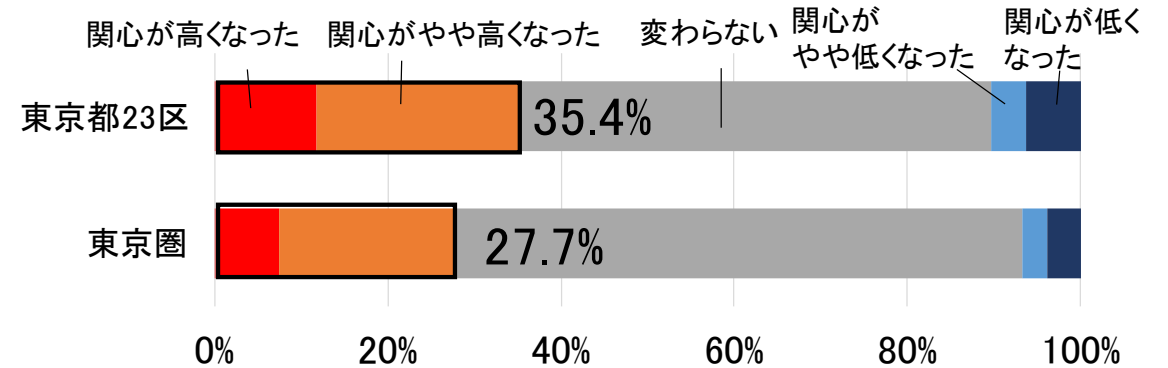
→テレワーク経験者は、仕事より生活を重視するように変化した人の割合は3分の2に達している。

「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識の変化



地方移住の希望の変化(20歳代)

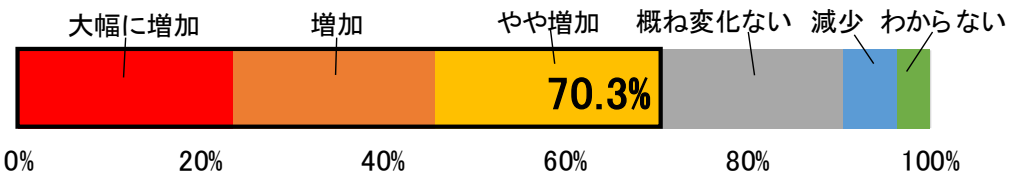
→東京都23区の20代の約35%が地方移住への関心が高まっている。



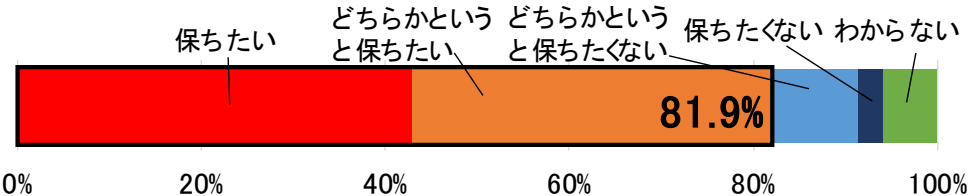
家族と過ごす時間の変化(子育て世帯)

→70%超の子育て世帯において、家族と過ごす時間が増加し、その80%超は家族と過ごす時間を今後も保ちたいと考えている。

子育て世帯の家族と過ごす時間の変化



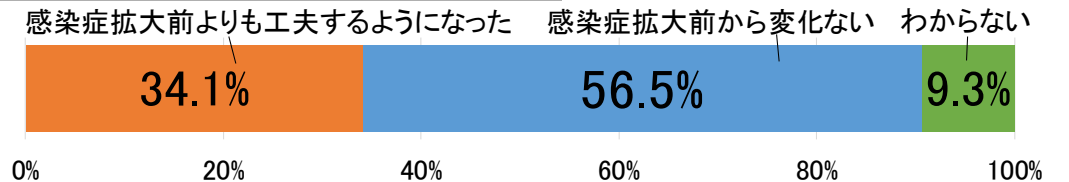
家族と過ごす時間が増加した者の今後の希望



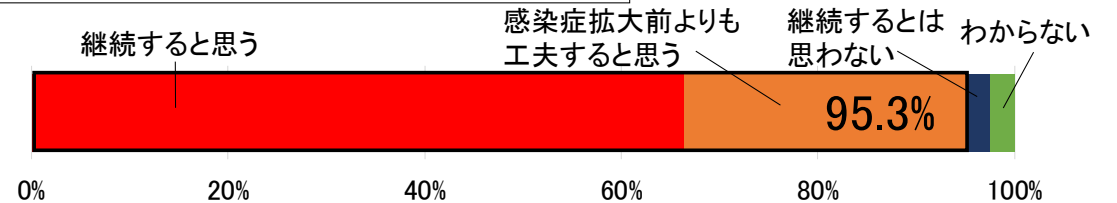
家事・育児の役割分担(子育て世帯)

→夫婦間で家事・育児の役割分担を工夫するようになった夫婦は3割を超え、そのうち9割超が工夫を継続すると考えている。

子育て世帯の家事・育児の役割分担の工夫

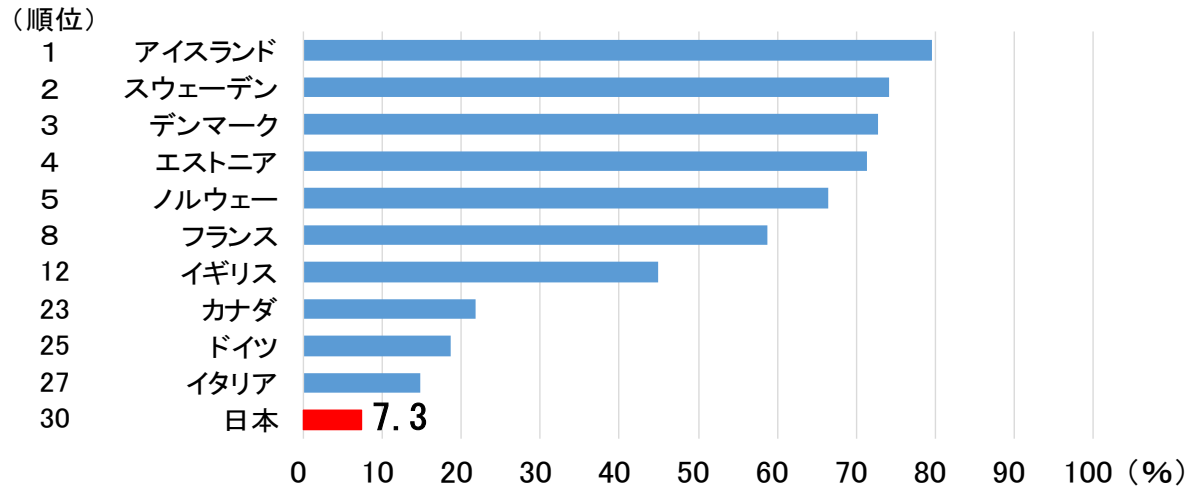


家事・育児の役割分担を工夫した者の今後の希望



(参考図表) 行政のデジタル化、テレワーク拡大は喫緊の課題

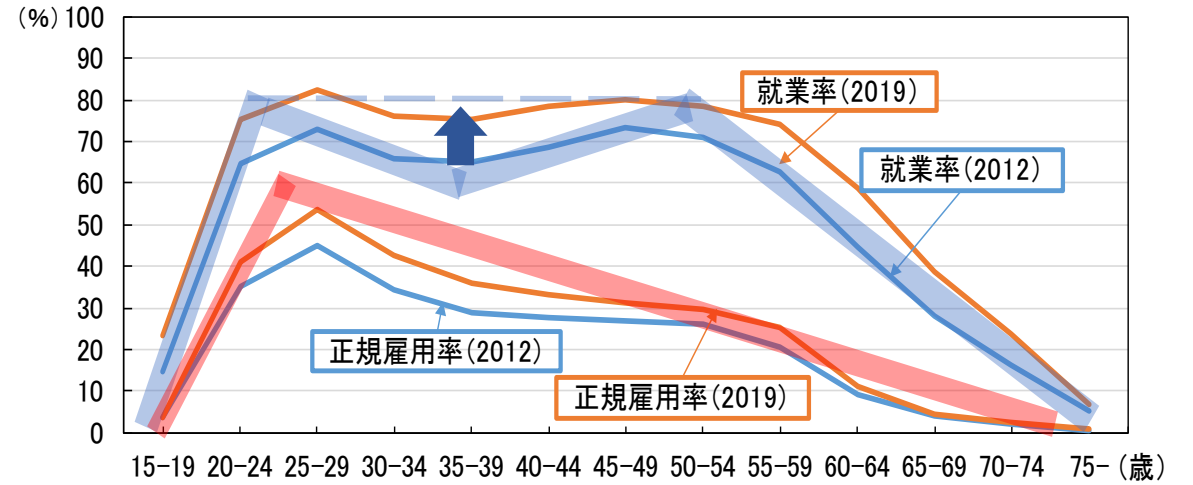
図 10 行政手続きのオンライン利用率



(備考) OECD.Stat(2018の数値)により作成。行政手続きのオンライン利用率とは、公的機関のウェブサイトからオンラインの申請フォームに記入・提出した個人の割合。

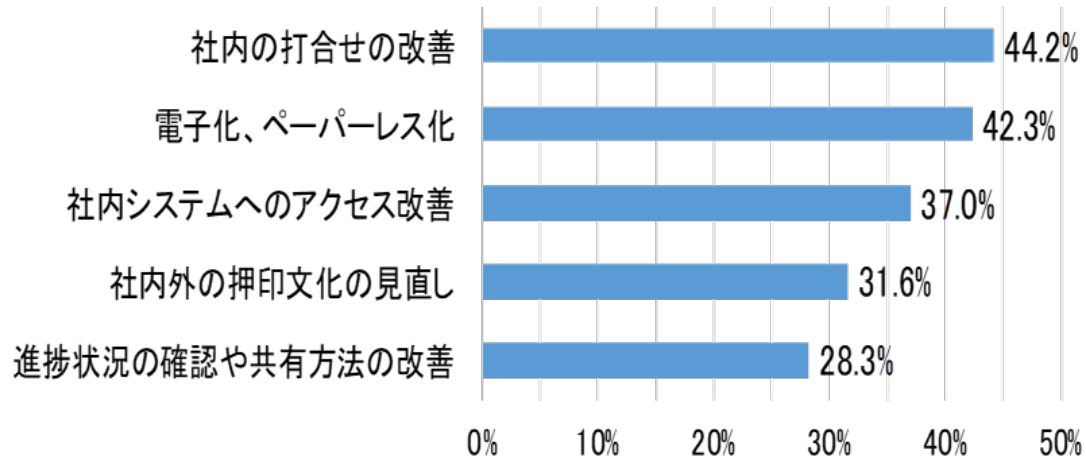
女性の働き方の選択肢拡大と性別役割分担意識改革を

図 24 女性の就業率と正規雇用率 (M字カーブとL字カーブ)



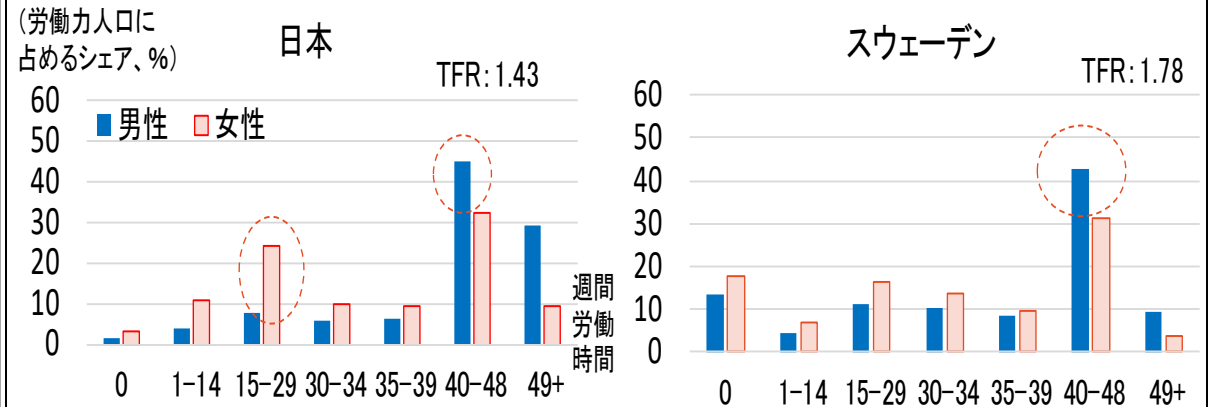
(備考) 総務省「労働力調査(詳細集計)」により作成。

図 11 テレワーク導入の課題



(備考) 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(令和2年6月)により作成。

図 25 男女別の週間労働時間分布 (2017年)



(備考) “ILOSTAT Database”により作成。(森口千晶一橋大学経済研究所教授提出資料(第6回選択する未来2.0(2020年4月15日))を参考に作成)